リハビリテーション科

1. 基本研修体制

自由選択科目の一つとして2年目の研修を原則とする。研修期間は各人の希望により柔軟に対応する。
旭川医科大学病院当科での研修を原則とするが、必要に応じて他科と連携を取りながら研修を行う。

2. 研修目標

1) リハビリテーション医療は患者のQOL(Quality of Life)を高めることを第一に考える医療である。基本的には運動機能障害をもつ患者が対象となるが、高次脳機能障害や嚥下障害をもつ患者なども対象になる。さらに発達障害も対象に含まれており、新生児から高齢者まですべての年齢層が対象である。また、これらの障害をきたす疾患は多種多様であり、あらゆる原疾患についても対応できる能力が要求される。多種多様な疾患および、すべての年齢層の患者に、患者の立場に立ってリハビリテーション医療を行える医師になることを研修の目標とする。
2) リハビリテーション医療はチーム医療であり、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士、ソーシャルワーカー、薬剤師、栄養士、放射線技師など多くのメディカルスタッフと協同して仕事を行う必要がある。チーム医療の要として活躍できる医師の養成を目指す。
3) 運動機能障害評価法の一つとして末梢神経や筋の異常を検索する筋電図検査がある。嚥下障害の評価法の一つとして嚥下造影検査がある。これらの検査法は障害の程度や回復の程度をみると同時に、治療方針を決定するために必要なものである。また、筋緊張のコントロールは運動機能障害改善のために重要であり、神経ブロックやボツリヌス療法がよく用いられる。患者の診断・評価・治療のために必要なこれらの技術を身につけることを目標とする。
4) 理学療法、作業療法、言語聴覚療法、装具療法はリハビリテーション医療には不可欠であり、各種障害に対するこれらの治療法を学ぶとともに、適切な処方が行えるように各種治療法に対する理解を深めることを目標とする。
5) 超高齢社会においては多くの患者は慢性疾患を有しており、介護や福祉との関わりを持つことが少なくない。患者が地域で安心した生活を継続するためには医療と介護・福祉との連携が必要であり、これらの仕組みを理解し、その橋渡しができる医療人を養成することを目標とする。

3. 研修スケジュール

当科は入院床を持たないため、当科に依頼のあった他科入院患者および当科の外来患者の診察およびリハビリテーション訓練を通じて研修を行う。上記以外のリハビリテーション医療に必要な検査法については、他科と連携しながらその手技習得を図る。

4. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来	カンファレンス 外来	症例検討 外来	抄読会 外来 筋電図	外来
午後	外来 カンファレンス	外来 嚥下造影	外来	装具外来	外来

研修医が各種学会、研修会、研究会、講演会に積極的に参加できる環境を整えます。

リハビリテーション科　　指導責任者　大田　哲生　(教授)
診療科長　大田　哲生　(教授)
指導医　齋藤　司　(助教)
及川　欧　(助教)